



ねこから目線。開業2周年

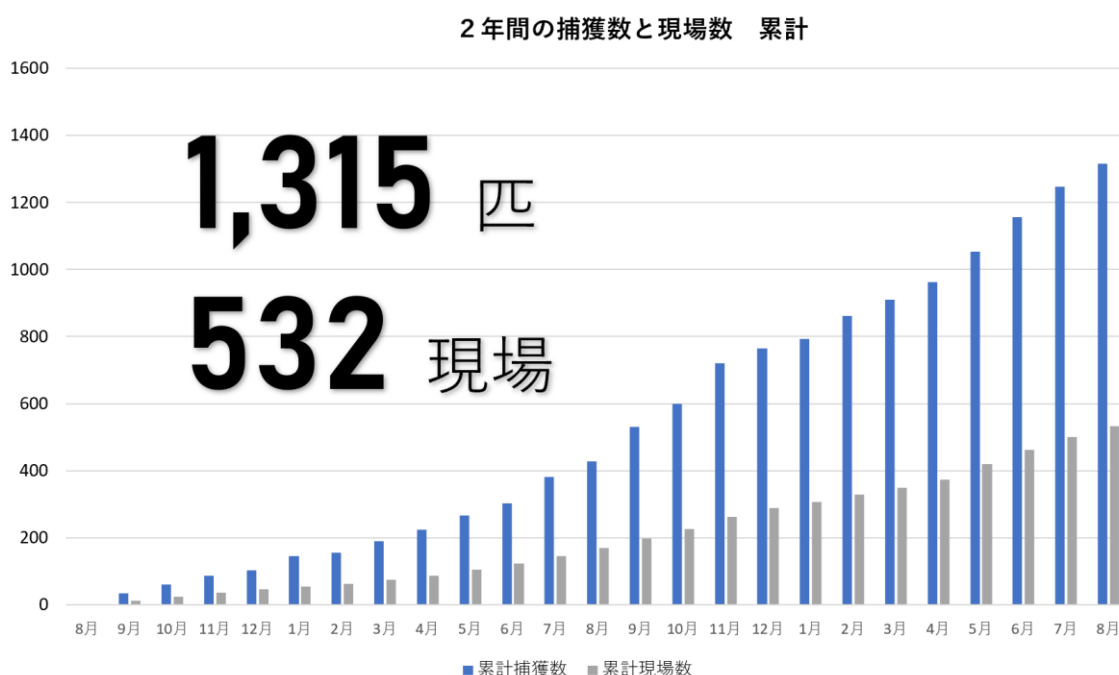
前号の対人援助学マガジンで書いた介入中のケースのその後を期待してくださっていた方には申し訳ないのですが、まだまだ継続中のため（捕獲に苦戦中）今回は、ボランティアとして活動している「人もねこも一緒に支援プロジェクト」についてではなく、私の仕事である「ねこから目線。」について書いていきたいと思います。

よく混同されるので、整理すると私は完全無料のボランティア活動として NPO 法人 FLC 安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク の中で「人もねこも一緒に支援プロジェクト」をやっています。ここでは、福祉的な支援が必要でかつペット問題を抱える方を対象としています。一方で、完全有料でノラ猫と保護猫のお手伝いを専門とする「ねこから目線。」を開業し、生活費を稼ぎながら自分の時間を猫とその猫と関わる人に活用してもらっています。簡単に対比をすると、下記のような感じでしょうか？

	人ねこケア（NPO）	ねこから目線。（個人事業）
利用料	無料	有料
対象	福祉支援対象者の飼い猫	ノラ猫と保護猫
対象範囲	とても狭い	広い
活動資金の出どころ	自腹+ご寄付	お客さん
安定具合	不安定	安定
位置づけ	ライフワーク	ライスワーク兼ライフワーク
ひと月当たりの稼働日	1～3日程度	25～31日程度
対応時間	仕事の合間	基本 24 時間対応

マガジンの登場頻度では、人もねこも一緒に支援プロジェクトの方が多いですが、私の生活時間の90%を占めているのは、ねこから目線。の仕事です。

そして、そんな「ねこから目線。～保護猫・ノラ猫専門のお手伝い屋さん～」が開業2周年を迎えました！2年も続くななんて驚きですね（笑）。まだまだ頑張れそうなので、いつも応援してくださる方や利用してくださったお客様に向けて、今回は2年間振り返りと考察をフィードバックしたいと思います。



1年目に引き続き、最も多いご依頼であるノラ猫さんの捕獲。捕獲成功頭数はこの2年間で1,315匹になりました。8割がTNRのための捕獲です。残りの2割くらいが保護のための捕獲でした。捕獲成功率は約86%でした。

ねこから目線。の場合は、捕獲して終わりではなく、病院で不妊手術を終えた猫さんを退院日にお迎えに行き、捕獲場所または、保護部屋に戻すところまでのお手伝いになります。沢山のノラ猫さんの捕獲に携わって、残念ですがあまりにもいい加減で軽いノリの「保護」をしようとしている人が多く、それによって猫に大きな負担がかかっている現状を目にしてきました。そこで、お仕事を受ける条件として「どこに連れていかれてしまうのか、どのように扱われるのか分からないため、捕獲器やキャリーでの受け渡しは原則しません。また、保護のための捕獲の場合は、飼育環境を見せていただき、①清潔、②2段以上のケージまたは隔離できる部屋、③脱走防止、この③点を定めました。これが最低確認できない場合はお断りさせていただくことにしました。うん十年ボランティアやっているといくら口頭で説明していただいても、いくらHPが立派でも、実際に中をみせてもらおうと多頭崩壊現場レベルなことも数件ありました。

正式譲渡成立 70 匹

トライアル中 7 匹

2 番目に多いご依頼の里親探しのお手伝いは 2 年間で正式譲渡成立 70 匹、現在トライアル中が 7 匹でした。里親探しのご依頼はもっと伸びるかと思っていましたが、そこまで伸びませんでした。ここは 3 年目にもう少し考察を深めていきたいと思います。

それ以外には、猫の不妊手術専門病院さんのパンフレット作成や、ボランティア団体さんのチラシ作成、小規模、中規模の勉強会講師などのご依頼がありました。夕方と深夜早朝は捕獲、日中は里親探しのお手伝い。そんなタイムスケジュールの毎日でした。

仲間が増える

ねこから目線。2 年目の大きな変化として、スタッフが 1 名増えました。開業から 1 年が経つ頃から、ご依頼がぐっと増え始め、自分ひとりで対応するには体力の限界がきていました。一緒に働いてくれる人を早急に見つける必要がありましたが、だれでもいいわけではありません。深夜早朝に動くことが多く、生活リズムは不規則、まる 1 日休みは月に 1 日か 2 日くらいなのに給料はそこそこ、ライスワークとライフワークの境界線が曖昧、それでも楽しんで働けるくらい猫と人が好きな人。そのうえで、動物保護や愛護の現場経験がしっかりあって、自分なりの考えをしっかりとっていて、でも押し付けがましくなくて・・・などなど、そんな人居るんかい！とツッコまれそうな条件で探していたところ、ピッタリと合う人に出会え、ねこから目線。はパワーアップしました。

新しい仲間になってくれた梅本さん。通称梅さんはある公益財団法人の動物保護施設に正職員として 10 年勤務していました。直接的な保護活動のすばらしさも、限界も、身をもって知っている人でした。そして毎日の激務に耐えてきた根性のある人でした。なのに、見た目はほんわかタイプです。



梅さんイメージ

そして 3 年目に入るにあたり、もう一人素敵なスタッフを捕獲したい！と思っています。2 人体制なのに 7 月は 2 人とも 1 日も休みを取ることができませんでした。これはブラック企業すぎます。せめてグレーな会社になるべくひっそりと求人中です。

ねこから目線。スタイルとは？

自分でこの1年を振り返ると、以前の「開業1年を振り返って」の内容と丸被りになってしまいそうなので、客観視の試みとして、スタッフ梅さんにインタビューする形で考察を試みようと思います。



2019年の9月末あたりから一緒に働いてもらって約1年になりますが、どうですか？（笑）2人体制なのに全然休みが取れなくてすいません。汗
シェルターの頃と比べて忙しいですか？

シェルターの頃と違って、ルーティンワークの忙しさはないですが、毎日新しい現場ですし、ノラ猫さんの捕獲は、その場その場で決断しないといけないことの連続なので、肉体的より精神的にしんどいですね。あと、捕えてあげたいのに捕まらなかった時は猛烈にしんどいです（笑）。



ねこから目線。ってどんな会社だと思いますか？特徴というか？

依頼者さんのこうしてほしいという気持ちがあっても、それを聞きながらも流されちゃいけない。でも気持ちには寄り添ってあげたい。要望を理解しつつもこちらの意見もちゃんと伝える。自分の意見を押し付けるのはあかんと思うんですけど、最低ラインは言わないといけない。そんな社風でしょうか？



あー！そうそう。“依頼主さんの要望を叶えることを第一にしないこと。”というサービス業らしからぬ特徴がありますね（笑）。例えば、TNRの不妊手術の時に爪を切ってあげたいとか、首輪をつけてあげたいとか。それは外で生きていくノラ猫にとってはデメリットの方が大きいと思うことに関しては、はっきり伝えるようにしていますね。“依頼主さんの要望を聞きつつ、猫にとってメリットがあることを依頼主さんと一緒に相談して、お手伝いする内容を確定していくスタイル”ですね。

どっちがいいかの判断が難しい時もあります。保護がいいのか、TNRがいいのか。人馴れしていないノラ猫を保護して飼いたいという人は、最低限捕獲前に保護する飼育環境を準備するという行動を伴ってほしいと思います。シェルターにいた頃は、ノラ猫を保護した人たちから、やっぱり飼えないからと猫の引取り依頼がたくさん来ていました。





げっそりするような飼育環境を数々目にきて、保護の場合の捕獲は飼育環境をみせてもらい、①清潔 ②2段以上のケージまたは隔離できるひと部屋 ③脱走防止 この3つがクリアされていない場合は断ることで落ち着きましたね。確かに外での生活は明日交通事故で死ぬかもしれないリスクがあります。でもそのリスクと天秤にかけても、ここに一生監禁されるのはちょっと・・・と思ってしまう。ねこから目線。では無理な保護はすすめないスタンスですね。

無理にこちらの考えを理解してもらえなくてもいい。こちら無理には理解しない。かぶる部分がないのなら一緒にはできないですね、で終わればいい。



自分たちのポリシーを曲げてまで仕事は受けない。それで依頼が来なくなるなら廃業すればいい。依頼主さんの希望通りに従うことができなくて、お前らなんかただの「上から目線だ!」と「猫だけ目線だ!」って罵倒されたことが1回ずつありましたね。めちゃくちゃ怒っていてもうまいこと言ってやろうとするのはさすが関西だなと思いました。誤解を恐れずに言えば、**重要なのはその依頼を自分がやりたいと思えるか、楽しいと思えるか、だ**と思ってきました。梅さん、印象に残っている現場とか猫さんはいますか？

ケガをしていた子は印象に残っています。ノラ猫のために高額な医療費を出して助けてあげようとしてくれる人が沢山いることも驚きましたし、その人たちと猫さんの役に立てると嬉しい。あとは、人馴れしていないノラ猫でも保護主さんが一生懸命向き合ってデレデレな性格にかわっていく変化がみれるとすごく嬉しくなります。



私がすごく印象に残っている現場は、ねこから目線。はじめた頃の頃にご依頼で、触れない飼猫さんを室内捕獲して、引っ越し先の家に連れてきてほしい、という老夫婦からのご依頼でした。広い室内を走り回る系の猫さんだったんですけど、なんとか捕獲できて、捕獲に立ち会ってくれていたおじいちゃんと一緒に引っ越し先に向かいました。お家にはおばあちゃんが居るのでインターフォン押したら「ちょっと待ってて!」と言われて、3分くらい外で待ってました。「ええよー!」って玄関の鍵が開く音がしたので、おじいちゃんの中に入ると、なぜか全裸にタオル一枚のおばあちゃんが笑顔で出迎えてくれました(笑)。「なんでやねん」っておじいちゃんがちいさな声で呟いて(笑)。ぱっと見、おばあちゃんから湯気がモクモクとしていたので、お風呂上りだと思うんですけど、外で待たされてた3分間じゃあ何してたの?ってなるじゃないですか。そしたら、おばあちゃんはもう一匹の先住猫が玄関からそとに出てしまわないように、一部屋にいて、扉を閉めたりしていたそうです。それで、猫さんの安全を確保できたことに安

心して、玄関の鍵あけてくれたんです。自分全裸なのに（笑）。ちょっと衝撃でしたけど、猫最優先なところがめちゃくちゃ素敵ですごい印象に残ってます。笑

私は猫を通して、色んな人に会えるのが楽しかったりするんですけど、梅さんは何が仕事のモチベーションになっていますか？

治療や TNR した子が餌場にかえってきてると嬉しいです。それぞれの場所でのんびりできるように、保護できる子は保護、難しい子は TNR、無理なくできる範囲で猫がのびのび暮らせるような助けになればうれしいです。もともと性格が世話焼きなんですよね。



ねこの目線にはなりきれない。ということに自覚的であり続ける。

ネットニュースのライターさんから取材を受けた際に「ねこから目線。」に込められた意味を聞かれました。正直あまり深く考えたことがなくて、うーんと考えていたら「やっぱり猫の目線になるってことですか？」と言われて、あっちそれは違うなと思いました。「ねこから目線。」は、“猫の目線にはなりきれない”という意味があると思いました。そのうえで猫にとってメリットのあることは何なのか、を考えていきたいという想いがあるんだと。なので、「ねこから目線。」を長く言うと「ねこからの目線ではどう見えるか考える」という感じですよ。意味って後からついてくるものですね（笑）。

私が、過度にパターンリズムに慣れてしまうことを警戒する姿勢と、猫の目線になろうとする姿勢の原点に近い部分は、「そうだ、ねこに聞いてみよう No.2」を読んでもらうと、謎が解けるかも・・・。

ご意見、質問などは下記メールアドレスへどうぞ。

筆者



小池英梨子

仕事：ねこから目線。～ノラ猫専門のお手伝い屋さん～

ボラ活動：NPO 法人 FLC 安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク

「人もねこも一緒に支援プロジェクト」 プロジェクト代表

ボラ活動：大学ねこ連盟 U-Cats 事務局

お問合せ：e.kosame12@gmail.com